Ⅲ　活動記録

1　展覧会

・出品リストについては、他館所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
・所蔵先、及び講師の所属は開催当時のもの。

特別展
「烏合会結成 120 年記念 若き清方と仲間たち ―浮世絵系画家の新時代―」

明治 34 年(1901)、23 歳の清方をはじめとする若者たちにより、美術団体「烏合会(うごうかい)」が結成された。浮世絵や挿絵の画家たちのほか、大和絵や四条派を学んだ者、趣味として絵画を楽しむ者ら多彩な顔触れが集い、新時代にふさわしい日本画を創り出そうとする集まりであった。

当時、挿絵画家として活躍していた清方にとり、烏合会での活動は日本画家へと軸足を移すため研鑽をつむ大切な場所であった。烏合会展への出品作には、《一葉女史の墓》など清方芸術の源流ともいうべき作品も含まれている。

本特別展では、烏合会結成 120 年を記念し、若き日の清方の作品を中心に、会員の鰭崎英朋や池田輝方、池田蕉園らの作品も紹介し、新たな時代の日本画創出を目指した若者たちの足跡をたどった。

会期　令和 3 年 4 月 15 日(木)～5 月 19 日(水)
　　(開館日数:31 日)

総入館者数　1,009 人(一日平均:33 人)

関連事業
　展示解説動画(オンライン)「《一葉女史の墓》」
　【公開期間】4 月 28 日(水)～5 月 20 日(木)

関連記事
　「ミュージアム・ナビ 若き清方と仲間たち」(神奈川新聞 4 月 30 日)
　「特別展 初期の作品や資料紹介 鏑木清方美術館で開催中」(タウンニュース No.794 4 月 16 日)
　他 10 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
たけくらべ 肉筆回覧誌『研究画林 巻之六』	明治 29 年	紙本着色・画冊	25.6×30.3	個人蔵
小山光方作 表紙 肉筆回覧誌『研究画林 巻之四』	明治 29 年	紙本着色・画冊	25.6×30.3	個人蔵

池田蕉園作 たそがれ	不詳	絹本着色・軸	143.0×56.5	個人蔵
池田輝方作 静と袈裟	不詳	絹本着色・軸（双幅）	(各)134.0×42.0	個人蔵
鰭崎英朋作 鑓権三重帷子	明治 37 年	紙本着色・軸	147.1×78.7	横浜美術館蔵
春駒『烏合会画帖』より	明治 42～43 年頃	絹本着色・画帖	28.3×19.5	東海大学付属図書館蔵
帰路の汽車にて『金澤より江の島一日有半之記』	明治 34 年頃	和綴本	25.0×17.0	個人蔵

【所蔵品】

「一葉女史の墓」「夏の思い出」「浅みどり」「年増美人」「ゆあみ」「栗をむく娘」「夏すかた」（初公開）
「三郎窺幼将図（肉筆回覧誌『美術くら逼一』）」「春色嬋妍之図（肉筆回覧誌『美術くらべ 満記乃三』）」
「蓮（田中素水三十三回忌画帖）」
「秋草」（当館寄託）
鏑木清方・福永耕美作「稲妻表紙（肉筆回覧誌『紫紅』）」
水野秀方作「かへり道」
下絵　「断崖（部分）」「曲亭馬琴」「夕霧阿波鳴渡」
スケッチ　「国姓爺合戦」「鏡山故郷錦」「観客」「碓氷峠頂上」「人物」「写生会」「曲亭馬琴のためのスケッチ」
「巣鴨風景スケッチ（《教誨》背景）「あやとり」「薔薇」「長女」「林檎の花」「藤」
模写　勝川春章《婦女風俗十二ヶ月》「四月 杜鵑」
『文藝倶樂部』口絵　「そゞろあるき」「ゆふ暮」
『新小説』口絵　「試験」「新緑（銅臭）」
『講談雑誌』口絵　「菖蒲湯（清方畫譜の五）」
『少女界』　「さみだれ（口絵）」「草苺（表紙）」
『歌舞伎』　「英獅子（表紙）」「兼房小紋に蘆と鷺（表紙・校正摺）」
「伊左衛門の紙衣と編笠（表紙）」「牡丹燈籠（表紙・校正摺）」
『国民新聞付録』　「春装」
『女子文壇 定期増刊たちばな月』口絵 「若葉」
山中古洞・画『女子文壇 定期増刊たちばな月』表紙
泉鏡花著作口絵　鏑木清方/鰭崎英朋・画『婦系圖』後編
尾崎紅葉著作口絵　『続編金色夜叉』（復刻）
山岸荷葉著作口絵　『反魂記』　黒岩涙香訳口絵　『野の花』前編
中村春雨著作口絵　『無花果』　幸田露伴著作口絵　『不蔵庵物語』
物集梧水著作口絵　『罪の命』　小山内八千代著作口絵　『新緑（上）』
広津柳浪著作口絵　『仇と仇』　村上浪六著作口絵　『当世女』
稲岡奴之介著作口絵　『花山花人』

資料　「田中素水三十七回忌画帖 ひとつ契」「目録（肉筆回覧誌『研究畫林 巻之一』）」
「紫紅 巻参批評冊」（初公開）「碓氷と妙義（『讀賣新聞』記事」「烏合会画集 弐」「烏合会集合写真」大野静方・著『浮世絵と版畫』山中古洞・著『挿絵節用』

特別展
「随筆『こしかたの記』刊行 60 年記念 清方が愛した江戸、東京。人、暮らし。」

優れた文筆家でもある清方。その代表的な著作『こしかたの記』は、少年期、青年期を過ごした明治時代を振り返り、失われてしまったかつての東京の街並みと人々の暮らしへの郷愁と哀惜の念を込めて綴られた随筆である。時代の目撃者であり当事者である清方の、文化や風習、美術界そして出版界の描写は、社会的・文化的資料としても評価されている。清方の「心のふるさと」への強い思いは、《朝夕安居》などの作品にも表され、清方芸術を語る上で欠かせない柱のひとつとなっている。

本特別展では、『こしかたの記』の刊行 60 年を記念し、江戸の名残をとどめる明治時代の東京の風景とそこで暮らす人々を描いた作品を、『こしかたの記』の文章とともに紹介した。

会期　令和 3 年 5 月 22 日(土)～6 月 27 日(日)
(開館日数:31 日)

総入館者数　1,184 人(一日平均:38 人)

関連事業
美術講演会「江戸の面影と明治の東京」
【講師】田中裕二氏(静岡文化芸術大学准教授)
【開催日】6 月 8 日(火)
日本画ワークショップ「岩絵具(緑青)を使って、絵を描こう！」
【開催日】6 月 13 日(日)
展示解説動画(オンライン)「《朝夕安居》」
【公開期間】6 月 15 日(火)～7 月 1 日(木)

関連記事
「ミュージアム・ナビ 清方が愛した 江戸、東京。人、暮らし。」(神奈川新聞 6 月 11 日)
他 9 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
春の流れ	昭和 34 年	絹本着色・額	43.2×25.8	個人蔵
白梅かをる	昭和 7 年	絹本着色・軸	128.0×41.5	個人蔵
萩の園	昭和 30 年頃	紙本墨画・額	54.8×41.5	個人蔵
洛外の春	明治末～大正初期	絹本着色・軸	114.5×41.4	平塚市美術館蔵
小園夏趣	大正 13 年～昭和初期	絹本着色・軸	129.0×35.0	平塚市美術館蔵

【所蔵品】

「曲亭馬琴」「朝夕安居」「新大橋之景」「水汲」「大蘇芳年」「清流」「寺子屋画帖」「あじさい」「有卦自祝之絵」「繪燈籠」「雑司ヶ谷会式」「五十鈴川」（初公開）

下絵	「女役者粂八」「大橋際のむきみや（今様絵詞の会）」
スケッチ	「下町の人力車」「伽羅先代萩」「王子稲荷境内弁財天」「千住鉄橋」「二本榎」 「芝神明めっかち生姜」「麦わら蛇」
『文藝倶楽部』口絵	「いで湯の夕べ」「ひともし頃」「梅雨晴」「よき事きく」「伽羅」
『新小説』口絵	「空虚」
『新演藝』口絵	「箕輪心中の綾衣」
『太陽』口絵	「清姿三十」
『美術世界』	渡辺省亭・画「幕府時代仕女図」渡辺省亭・画「墨堤月景」
『歌舞伎』挿絵	「床下」
『東京　築地川』	「目録」「明石町」「伊達家水門」「組立燈籠」「亀井ばし」「鉄砲洲」「船住居」「佃島」 「獺化ける」「築地橋」「氷店」「紫陽花の垣」「作者」
稲岡奴之介著作口絵	『痣』
松居松葉著作口絵	『一夜畫工』
江見水蔭著作口絵	『恋の浮島』『海水浴』
村井弦斎著作口絵	『日の出島　朝日の巻』
島崎藤村著作口絵	『緑葉集』のうち「老嬢」
渡邊霞亭著作口絵	『新渦巻　光子の巻』
その他口絵	「今様夏の巻　五月雨」「Japanese school-girl」「小春」（下絵）
山岸荷葉著作表紙	『紺暖簾』（校正摺）
装丁	『鏡花全集』見返し装丁
資料	「自筆原稿「水汲」」「『こしかたの記』表紙原画」 「「こしかたの記」連載第一回（『中央公論』）」 「『こしかたの記』限定版」
意匠	「白地藍ろうけつ染　紫陽花花模様浴衣地」 「テーブルセンター　あじさい」

企画展 「夏色美人 ～清方がみた夏げしき～」

清方は、絵心が動くのは女性の美よりも季節の感覚や草木の魅力であるといい、中でも初夏から晩夏までの風情を好んで描いた。白地に藍染の浴衣、簾、風鈴、提灯、金魚鉢、朝顔、柴田是真の絵団扇等、江戸の庶民文化が色濃く残る明治の東京でよく見られた夏の風物を、特に印象的なものとして挙げている。

明治の平和な市井の生活をこよなく愛した清方にとり、夏の風情は明治への郷愁をつよく誘うものであった。清方芸術の金字塔と評される《築地明石町》もまた、晩夏の風情と明治への追懐を重ね描いた作品である。

本企画展では清方が描いた夏の景色を、《朝涼》《築地明石町》(下絵)をはじめ、《夕立雲》《手賀沼》等の風景画や、清方が意匠を手がけた浴衣資料も交えて紹介した。

会期

令和 3 年 7 月 2 日(金)～8 月 22 日(日)
(開館日数:45 日)

総入館者数　1,409 人(一日平均:31 人)

関連事業

夏休み親子観賞
【開催期間】7 月 2 日(金)～8 月 22 日(日)
子どもたちが美術館で楽しく過ごすための動画上映
【開催期間】7 月 2 日(金)～8 月 22 日(日)
日本画ワークショップ「日本画材を使って、うちわに絵を描こう！」
【開催日】7 月 11 日(日)
親子ワークショップ「親子で美術館へ行ってみよう！」
【開催日】7 月 28 日(水)
子ども参加プログラム「日本画材の 3 つの色の砂子を使って、絵を描こう！」
【開催日】7 月 29 日(木)、30 日(金)
子ども参加プログラム「浮世絵の多色摺り技法を体験してみよう！」
【開催日】8 月 5 日(木)、6 日(金)
展示解説動画(オンライン)「《築地明石町》(下絵)」
【公開期間】8 月 12 日(木)～8 月 25 日(水)

関連記事

「夏色美人 ―清方がみた夏げしき」(鎌倉朝日　7 月 1 日)
他 11 件

出品作品

作品	「襟おしろい」「朝涼」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「砂浜少女」「清子四歳像」「ゆかた」 「夕立雲」「柳の下に涼む娘」「築地明石町の船・詞」「山百合」「手賀沼」(寄託)
下絵	「妓女像(右幅)」「妓女像(左幅)」「築地明石町」「朝夕安居(昼)」「紅雨荘」 「遠い花火」「明治の女」「風鈴」「汐路のゆきかひ」
スケッチ	「朝涼」「紅雨荘」「築地明石町のためのスケッチ」(2 点)「由比ガ浜」「照　写生」(2 点) 「勝川春章作《婦女風俗十二ヵ月図》のうち《六月　行水》」 「美人図(足利本銘仙ポスターのためのスケッチ)」 山川秀峰作「清方《妓女像》制作風景」
『清方美人畫譜』	「午後の海」
『文藝倶楽部』口絵	「都鳥(口絵・校合摺)」「涼風(口絵・下絵)」「蚊遣の煙」「ゆふ暮」
『講談雑誌』口絵	「盆提灯(清方畫譜の七)」「戀の湊(清方畫譜の八)」「九月の海(清方畫譜の九)」
『婦人画報』口絵	「流るゝ水」
『婦人世界』口絵	「星多き夜」
『苦楽』表紙絵	「高尾ざんげ(表紙絵・下絵)」「神田祭(表紙絵・下絵)」「たけくらべの美登利」 「あまのがは」「田舎源氏」「芙蓉(表紙絵・下絵)」「箱庭(表紙絵・下絵)」 「宇治の蛍(表紙絵・下絵)」「湯の宿(表紙絵・下絵)」
扇子	「風景」「朝顔・新国劇二十年」「凌霄花に蜻蛉」「朝顔」「朝顔」
団扇	「美人　のれん」「美人　朝顔　井戸」
資料	「染分(紗)地染繍秋草露芝流水模様着物」 「白地藍型染松柄浴衣端切れ」 「藍地植物模様白上げ浴衣地仕様四方布」 「藍地白上げ小菊柄浴衣地」 「白地藍染露草柄小布」 「竺仙製藍地型染白上げ撫子柄浴衣地」 「白地藍型染(陰陽)柏葉模様浴衣地」 「藍地白抜き貝模様浴衣地　裁断済(型染)」 「白地藍型染桜蝶模様浴衣地」 「憩ひ(色紙付書翰箋)」

企画展 「幽玄の美に誘われて ～泉鏡花と清方の出会い～」

清方芸術の特徴のひとつに、40 年以上にわたり深く親交した泉鏡花からの影響が挙げられる。

若き日の清方は、鏡花の文学作品の熱烈な愛読者で、鏡花の小説に挿絵を描くことを目標に研鑽を重ねていた。明治 34 年(1901)の春、出版社をとおして鏡花から新刊本『三枚續』の装幀を依頼され、同年 8 月、安田松廼舎(まつのや)を介し、ついに憧れの鏡花と会うことになった。二人は初対面から旧知の仲のように意気投合し、以後、数々の鏡花の文学作品で清方は挿絵や装丁を手がけていく。日本画壇に活躍の場を移してからも鏡花の文学世界に好んで取材し、卓上芸術の名品と評される《註文帖》等を生み出した。

本企画展では二人の出会いから 120 年を迎えることを記念し、鏡花の小説のために描いた挿絵や関連する日本画作品を中心に、清方と鏡花の交流と芸術上の広がりを併せて紹介した。

会期　令和 3 年 8 月 28 日(土)～10 月 19 日(火)

(開館日数:45 日)

総入館者数 1,766 人(一日平均:39 人)

関連事業

鏑木清方誕生日記念イベント

【開催期間】8 月 28 日(土)～9 月 5 日(日)

期間中毎日来館者先着 10 名に絵葉書セットのプレゼントを実施

日本画ワークショップ「日本画材を使って、絵巻物を描こう！」

【開催日】9 月 12 日(日)

展示解説動画(オンライン)「泉鏡花著『三枚續』木版口絵」

【公開期間】10 月 3 日(日)～10 月 21 日(木)

市民講座(オンライン)「第一回:渡辺省亭と鏑木清方」

【公開期間】9 月 28 日(火)～10 月 31 日(日)

関連記事

「企画展 幽玄の美に誘われて ～泉鏡花と清方の出会い～」(湘南百撰 No.50)

他 8 件

出品作品

作品	「ほゝづき」「暮れゆく沼」「孤児院」「深沙大王」「ふたつあちさゐ」「金沢絵日記　五」 「註文帖（全 13 図）」「秋の花」（初公開）
他作家作品	前田青邨「江木定男像」
下絵	「小説家と挿絵画家」「寒月」「八幡鐘」「玄宗皇帝」「たけくらべの美登利」 「日高川　道成寺」「高野聖（今様絵詞の会）」
未定稿	「一葉」
泉鏡花著作関連	『三枚續（口絵・下絵・表紙絵）』『無憂樹（口絵・下絵）』『式部小路（差上げ）』 『戀女房（口絵・校合摺）』『さゝ蟹（『田毎かゞみ』口絵）』 『風流線（口絵・下絵・校合摺・差上げ・校正摺） 『神鑿（口絵・校合摺・差上げ）』『薄紅梅（口絵・下絵 2 点）』 『婦系図　後編（鏑木清方/鰭崎英朋口絵）』 『婦系図　鏡花選集（表紙装丁）』『鏡花選集第 3 巻（箱装丁）』 『鏡花全集（表紙・裏表紙・扉装丁）』 『高野聖（『現代名作集　別巻』口絵原画）』
尾崎紅葉著作関連	『金色夜叉絵巻（口絵・下絵・箱装丁）』
『新小説』口絵	「起誓文」「舞の袖」「瓔珞品」「色暦」「楊柳歌」「紅雪録（口絵・下絵）」 「胡蝶之曲（口絵・下絵）」
『苦楽』表紙絵	「高野聖（表紙絵・下絵）」「紅梅屋敷（表紙絵・下絵）」
泉鏡花遺愛品	「兎の置物」 「兎の帯どめ・箱」
資料	『三枚續（清方旧蔵）』

特別展 「秋冬の情趣、清方のことば」

古くから「もののあはれ」の美意識に代表されるように、自然に触れることでしみじみとわき起こる繊細な感性が日本の芸術を育み、季節への細やかな感覚が、様々な絵画や工芸品に表現されてきた。

清方もまた、季節が織りなす自然の美に感興をそそられ、それを創作の原動力とした。秋から冬へと移りゆく風情、虫の音や雪景色など、その季節特有の美を随筆や詩句でも讃えている。

本特別展では《明治は遠し　巷の吹雪》や《草秋帖》など、秋冬の情趣に対する清方の細やかな感性が感じられる作品を中心に、清方が紡いだ詩句も初公開資料を交えて紹介した。

会期　令和 3 年 10 月 23 日(土)～11 月 28 日(日)

(開館日数:31 日)

総入館者数 1,955 人(一日平均:63 人)

関連事業

美術講演会「鏑木清方《築地明石町》をめぐるあれこれ」

【講師】鶴見香織氏(東京国立近代美術館　主任研究員)

【開催日】11 月 9 日(火)

日本画ワークショップ「胡粉を使って、日本画を描こう！」

【開催日】11 月 20 日(土)

市民講座(オンライン)「第一回:渡辺省亭と鏑木清方」

【公開期間】9 月 28 日(火)～10 月 31 日(日)

市民講座(オンライン)「第二回:鏑木清方の蔵書から」

【公開期間】11 月 12 日(金)～12 月 28 日(火)

関連記事

「ミュージアム・ナビ　秋冬の情趣、清方のことば」(神奈川新聞　11 月 19 日)

他 10 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
浅春	昭和 30 年	絹本着色・額	20.7×18.0	個人蔵
草秋帖	昭和 8 年	紙本淡彩・折帖(二十一面)	(各)24.0×35.7	個人蔵

紅葉の画	昭和 33 年	紙本淡彩・額	25.0×17.3	個人蔵
梅か香	昭和 29 年	紙本着色・額	52.7×34.0	個人蔵
明治は遠し 巷の吹雪	昭和 28 年	絹本着色・額	56.0×42.0	個人蔵
春夜	昭和 11 年	絹本着色・額	35.7×41.7	個人蔵
水仙	昭和 15 年	絹本着色・額	47.8×56.5	個人蔵

【所蔵品】
「桜もみぢ」「秋宵」「にごりえ（序文・全 15 図）」「寒月」「雨華庵風流」「落葉焚く」「栗むく娘」「虫の音」「子供二人」「砧」

下絵　「鷺娘」「雪の旦」江戸十五題の一 八幡鐘」「瀧野川観楓」「茶の間の秋」「十一月の雨」「長夜」（初公開）「抱一のあさり」（2 点）（初公開）

小下絵　「墨河水清」「初雁の御歌」「桜もみぢ」（初公開）

スケッチ　「檀もみち」「柿もみじ」「栗」「水仙」「大宮の風景」「巣鴨風景」「大川雪景色」「箱根二子山」「御殿場からの富士」「茅ケ崎より朝の不二」「菊」「桜と蔦の紅葉」

清方の句　6 点（初公開）

『文藝倶楽部』口絵　「夜長」「こほろぎ」「八幡鐘」
『講談雑誌』口絵　「旅愁（清方畫譜の十）」「朝寒（清方畫譜の十一）」
『婦人画報』口絵　「秋の旅」
坪内逍遥著作口絵　「お夏狂乱（『新曲金毛狐』）」
その他口絵　「菊」「思い出」

企画展 「華やぐ舞台と女性 ～新春 押絵羽子板とともに～」

明治初期に東京の下町に生れ育った清方は、両親から影響を受けて芝居を愛好し、若き日は役者になることを夢見たこともあった。

やがて挿絵画家として、演劇雑誌に劇評や舞台上を写したスケッチ、登場人物の姿を口絵に描くようになると、その細やかな観察眼と表現力が高く評価された。また、日本画作品においても、好んで舞台の美に取材した。中でも京鹿子娘道成寺の花子や本朝廿四孝の濡衣に関心を寄せて描いている。

さらに明治時代の劇場空間や観劇に訪れた人々にも画趣を感じ、幕間の様子や、升席で楽しむ女性たちなど、今では文化史的にも貴重な往代の風俗を作品に残した。

本企画展では清方の芝居絵と共に、押絵羽子板≪明治風俗十二ヵ月≫など新春の風情豊かな作品も併せて紹介した。

会期　前期：令和 3 年 12 月 2 日（木）～19 日（日）
　　後期：令和 3 年 12 月 22 日（水）～令和 4 年 1 月 10 日（月・祝）
　　（開館日数:29 日）

総入館者数　1,413 人（一日平均:49 人）

関連事業

日本画ワークショップ「日本画材を使って短冊に絵と詞を描こう！」
【開催日】12 月 12 日（日）
「新春お年玉プレゼント」
【開催期間】1 月 4 日（火）～1 月 10 日（月・祝）
来館者にミュージアムグッズのプレゼントを実施
「鎌倉 葉山 近代日本画の巨匠の旧居跡めぐり」
【開催期間】1 月 4 日（火）～2 月 27 日（日）
山口蓬春記念館との連携事業

関連記事

「華やぐ舞台と女性」（新美術新聞 1 月 1 日・11 日号）
他 6 件

出品作品

作品　「白梅」「道行浮塒鷗」「カルメン」「道成寺」「梅蘭芳 天女散華」「風景（里）」「歳旦」「春や昔」「松のうち」「早見の藤太」「白梅」（大正期）「白梅」（昭和 45 年）「狐狗狸」「雪兎」

下絵　「女歌舞伎」（※前期のみ展示）
「明治の女」

「朝顔日記（宇治の螢・明石船別れ・島田の宿・目なし鳥・露の干ぬ間・大井川・ひれふる山・かへり咲）」

『清方美人畫譜』　「幕間」
『文藝倶樂部』口絵　「春を待つ」「小春」「餅むしろ」
『新小説』口絵　「虎の門　見立十二姿の内」
『講談雑誌』口絵　「初夢（清方畫譜の一）」「炬燵（清方畫譜の十二）」
『文藝界』口絵　「都大路」
『婦人世界』口絵　「元日の朝」「さくら色」
『婦人公論』口絵　「歌留多會の夜」
『大正婦人』口絵　「初東風」
『新演藝』口絵　「濡衣（芝居十二ヵ月）」「箕輪心中の綾衣（芝居十二ヵ月の内）」
「戻橋の小百合（芝居十二ヵ月の内）」「額の小さん（芝居十二ヵ月の中）」
「「義経千本桜」の静御前」
『演藝倶楽部』口絵　「三ツ俣川の高尾」「茶屋の二階」
『演藝畫報』口絵　「對牛楼の旦開野」
尾崎紅葉原著口絵　『金色夜叉絵巻（口絵・下絵）』
岡鬼太郎著作口絵　『三筋の綾　花柳風俗』
渡辺霞亭著作口絵　『渦巻　後編』
その他口絵等　「初雪」「年始まわり」「風俗美人画(一)松の内　朝日カレンダー　一月」
『国民新聞』付録　「春装」
『文藝倶楽部』付録　「軍国をんな雙六」「新案雙六當世二筋道」「新年附録時代美人風俗双六」
鰭崎英朋・鏑木清方「松の内」
資料　永井周山作・押絵羽子板「明治風俗十二ヶ月」（※後期のみ展示）
「宝珠」
「舞扇　渦巻」
「ふくさ　振り振り」
「風呂敷　扇面に松と飴や」「風呂敷　凧と梅」「風呂敷　張子の虎とキンカン（風呂敷・原画）」
「清方意匠　年賀状」（5 点）

企画展 「うつくしきひと。 ～清方のまなざし～」

清方は、明治、大正、昭和と、生涯をとおし女性の美を描き続けた。街で見かけた婦人、芝居の観客、歌舞伎の女形、ともに暮す妻や娘たち――清方のまなざしがとらえた姿は、写生帖や記憶に残され、制作の礎となった。さらに、同時代の女性のみならず、江戸時代の女性や物語の登場人物など多様な女性像を描いた。時代とともに変わりゆく風俗や流行を敏感に感じ取りながら、姿形の奥にある、自らが理想とする女性の美を追い求めた。

本展覧会では、様々な視点から描かれた清方の美人画を中心に、モデルを務めるだけでなく自身も筆をとった照夫人の作品や師の系譜を継ぎながら異なる魅力の女性を描いた弟子たちによる作品も紹介した。

会期　令和 4 年 1 月 14 日(金)～2 月 27 日(日)

(開館日数:39 日)

総入館者数 1,379 人(一日平均:35 人)

関連事業

「鎌倉 葉山 近代日本画の巨匠の旧居跡めぐり」

【開催期間】1 月 4 日(火)～2 月 27 日(日)

山口蓬春記念館との連携事業

「着物で楽しむ美術館」

【開催期間】1 月 14 日(金)～2 月 27 日(日)

着物で来館された方を対象に入館料を割引

関連記事

「神奈川マリオン 企画展 うつくしきひと。 ―清方のまなざし」(朝日新聞 2 月 3 日)

「企画展 うつくしきひと。 ―清方のまなざし」(博物館研究 Vol.57 No.2)

他 9 件

出品作品

作品　「寫生」「芸妓」「比伊奈」「芍薬」「女役者粂八」「二人静」「崔承喜(一)」「崔承喜(二)」「美人図」(初公開)「童」(初公開)「母子」(初公開)「白梅」(初公開)

他作家作品　「五星連珠(弟子の寄せ描き)」西田青坡「美人図」(初公開)鏑木照「歌妓」(初公開)鏑木照「雪姫」鏑木照「さゝ蟹」(初公開)寺島紫明「題不詳(扇子)」(初公開)

下絵　「伽羅」「客間」「初冬の花」「のれん（夏姿）」「女役者粂八」「崔承喜」「南葛飾早春」
「若き照像」（初公開）
未定稿　「春　明治風俗」

スケッチ　「妓女像のためのスケッチ」「少女横臥像」「傘を持つ女」「女性像」（2 点）「椿」「照」「照　長女」
「人物」（2 点）「万盛庵の女中」「お七」「劇場内スケッチ」「河合の丁山」「日本髪」「長女」
「嫁入り」

『清方美人畫譜』　「白壁」
『文藝倶楽部』口絵　「緋桃」「雛壇の下」
『新小説』口絵　「瑞香（百花百姿）」
『講談雑誌』口絵　「戀の湊（清方畫譜の八）」
『淑女畫報』口絵　「春の人」
『女学世界』口絵　「紅梅」
『婦人世界』口絵　「春霞巾を着けた女」
『苦楽』表紙　「湯の宿」
江見水蔭著作口絵　「雲がくれ（口絵・下絵）」
稲岡奴之介著作口絵　「花山花人」「三人書生」
小栗風葉著作口絵　「新かつら下地」「麗子夫人（口絵・下絵）」
小杉天外著作口絵　「にせ紫　後編」
田口掬汀著作口絵　「三昼夜（口絵・下絵）」「黒風　後編（口絵・下絵）」
菊池幽芳著作口絵　「賣花娘」
広津柳浪著作口絵　「仇と仇（口絵・下絵）」
中村春雨著作口絵　「無花果」
黒岩涙香訳口絵　「野の花　前編」
その他口絵　「舞子の浜」

企画展 「春、うらら。 ～清方の風景とスケッチ～」

梅、沈丁花、菫、桜――清方は、人物の足元や背景に、春の訪れを告げ、春の盛りを彩る花々を描いた。

人物を描く時、人の姿形よりも、人物から感じられる季節感を大切にした清方。若い頃から晩年まで、日常的に続けた植物や風景の写生が、その繊細で豊かな季節の表現を支えた。

「写生なさい、写生なさい。色も形もそれから得るのです。」（『美人畫講話』）日本画を学ぶ者たちに向けたことばには、自然を写生することで、色彩や形の美を感じ取り、学び取ってきた自身の実感がこもっている。

本展覧会では、春の情趣あふれる作品を中心に、鎌倉、箱根、大磯などの風景や草花のスケッチを紹介した。

会期　令和 4 年 3 月 4 日（金）～4 月 10 日（日）
　　（開館日数:33 日）

総入館者数 2,159 人（一日平均:65 人）

関連事業

春休み子ども参加プログラム「絵絹に日本画材で描いてみよう！」
【開催期間】3 月 26 日（土）、27 日（日）
春休み親子観賞
【開催期間】3 月 26 日（土）～4 月 3 日（日）
市民講座（オンライン）「第三回:映像で見る鏑木清方！」
【公開期間】3 月 31 日（木）～8 月 31 日（水）

関連記事

「春、うらら。 ―清方の風景とスケッチ」（鎌倉朝日 3 月 1 日）
他 6 件

出品作品

作品	「舞妓」「金沢春景（春の立場茶屋）」「嫁ぐ人」「しだれ桜」「僧房春蘭（牡丹の寺）」「鉢植の梅松（試筆）」「風景（池）」「干物」「鰈」「牡丹（一）」「牡丹（二）」「大和路の或る家」「桜乙女」清方筆「紅梅模様描絵打掛」（初公開）
他作家作品	鏑木照「枕獅子」（初公開）
下絵	「春雪」「水声」「卯月の宵」
模写	「勝川春章「婦女風俗十二ヶ月の図」 四月 杜鵑」

スケッチ　「桜」(2 点)「木蓮」「藤」「桃・菜の花」「花かんざし」「都鳥」(初公開)「豆の花」「苺の花」
「薔薇」「奈良」「砂地のすみれ・いとよりだい」「江の島」「由比ヶ浜」「東慶寺」
「瑞泉寺からの眺め」「花水川・花水橋」「大磯」「小田原天神山」「箱根」「湖尻」

『清方美人畫譜』　「春のいでゆ」
『文藝倶樂部』口絵　「花吹雪」「白魚」「鸚鵡」「都鳥」
『講談雑誌』口絵　「光のどけき(清方畫譜の四)」
『婦人画報』口絵　「松島」
『九州日報』付録　「醍醐の花見」
小栗風葉著作口絵　「麗子夫人 前編」
菊池幽芳著作口絵　「月魄 藤乃の巻」
山岸荷葉著作口絵　「反魂記」
渡辺霞亭著作口絵　「勝鬨 中編」
その他口絵　「花の蔭」「散歩」「上野の花」「散歩」「小田原の海」
稲岡奴之助著作表紙絵「三人書生」
小栗風葉著作表紙絵　「戀女房」
村上浪六著作表紙絵　「金剛盤 前編」
江見水蔭・大沢天仙著作表紙絵 「誰が罪」
装丁　市川三升著『九世団十郎を語る』『長谷川時雨全集 一巻(表紙・箱)』
鏑木清方著『褪春記(表紙・箱)』(限定版)